

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100035		
法人名	有限会社 サンセイ		
事業所名	グループホーム いこいの家		
所在地	静岡県富士宮市万野原新田3163-1		
自己評価作成日	平成24年11月 1日	評価結果市町村受理日	平成25年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2010_022_kani=true&JigvosyoCd=2292100035-00&PrefCd=22&VersionCd=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成24年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

富士山に臨む恵まれた環境の中で、利用者の方々「明るく豊かに共に生きる」人生を送れるように一人一人の個性やニーズに合わせた支援を心掛けています。職員各自が心のゆとりをもって、利用者の方々のお話をお伺いしたり、レクリエーションを一緒に楽しんだりしています。広い共有空間や居室を小まめに掃除し、いつもきれいに保ち、気持ちよく過ごしていただけるように努めています。毎回の食事職員の手作りで家庭的なものを召し上がっていただくようにしています。職員の介護知識や技術の向上を図ると共に、利用者の方々に敬意を示すこと・気遣いや思いやりを示すことの大切さについても常に話し合い実践に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表とホーム長・職員が連携し、霊峰富士を望む恵まれた環境の中で、利用者の個別のニーズに対応した介護が実践されている。特に、家族や近隣・行政との良好な関係を築き、利用者本位のホーム運営が行われている。創業以来不変の理念を掲げ、それをブレークダウンして毎年今年の目標を定め、職員で共有している姿も見られる。更に着実な運営推進会議の開催や充実したスタッフ会議・適格なケアプランの作製と更新・こまめな「いこいたより」等に支えられ、更に発展・充実が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新事業年度の初めに、会社の理念とその実践について話し合い、年度目標を設定しています。理念および年度目標はホーム内に掲示し意識付けを図っています。	創業以来不変の理念「明生・豊生・共生」を掲げ、しかも年度毎に目標を設定している。今年度は「人の話をよく聞こう」で、事務所・台所・職員トイレに掲示し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	2ヶ月に1度の運営推進会議に地域の方の出席をお願いしています。区の夏祭り・運動会にも招待を頂きました。町内には毎月「いこいたより」を回覧していただいています。市の一斉清掃にも協力参加しています。	近隣や市の夏祭り・運動会・一斉清掃等に参加し、ホームでは「いこいたより」の回覧、認知症サポーター研修等を実施し、地域の一人として日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の講師等に積極的に降り組み、地域の方々に認知症についての理解を深めていただけるよう努めています。毎月の「いこいたより」を活用し情報提供をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を実施し、ホームの状況や取り組みを報告させていただいています。参加者の皆様との意見交換・質疑応答・情報提供を図っています。	2ヶ月に1回着実に開催されており、然るべき参加者を得て、漏れのない情報交換や意見交換が行われ、ホームの運営・サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員・包括職員(計3名)の参加をいただき、また、日頃から連絡を取るようになっています。認知症サポーター養成講座等の活動を通じ、市の担当職員との協力関係・情報交換を図っています。	行政担当者とは日常的な報(告)・連(絡)・相(談)が行われている。また、運営推進会議には行政から毎回複数の参加者があり、更に認知症サポーター研修の実施等を通じて絶えず協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄間の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束はしない」のが当たり前の介護と職員全員で認識して取り組んでいます。声かけにも注意しています。	拘束の宣言を行い、実践に取り組んでいる。スタッフ会議ではフィジカル(身体)のみならず、スピーチ(言葉)・ドラッグ(薬品)ロックについても研修や研究が行われ、拘束の無いケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に「自分がされたら嫌なことはしない」などの意識付けを図り、虐待防止に取り組んでいます。身体的にだけでなく言葉による虐待にも注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の権利を守ること、権利を侵害しないよう常に配慮しています。成年後見人制度や日常生活自立支援事業についても知識を深め、問い合わせに対応できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改定については、ご家族との話し合い・説明の機会を設けています。今年度の法改正に伴う変更についても、個々に説明し、承諾書をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のご案内を全家族に送付し参加をお願いしています。出席できない方はご意見やご要望を記入して返信していただくようにしています。面会時や催し時にも、ご意見やご要望をお伺いするようにしています。	家族会や運営推進会議・訪問時・各種行事等の折に利用者・家族の意見を聞き、運営に活かすよう努力している。また、運営推進会議案内やおたよりで、家族の意見表示を促している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1度のスタッフ会議にて職員の意見や提案を検討するようにしています。また、日常業務の中においても常に職員とのコミュニケーションをとるようにしています。	日常の触れ合いとともに、大変有意義なスタッフ会議が行われている。言葉遣いや声掛け・身だしなみ・おたよりの文面検討等、率直な意見交換の中で職員の意見や提案を聞き、ホームの運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりに自己評価表を記入していただき、また、代表者は昼食を当施設でするようにし、現場での職員の勤務態度等を観察し客観的に評価しています。職員の意見もくみ上げるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を定期的実施すると共に、職員に社外研修への参加を積極的に促し、職員一人ひとりのスキルアップを進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の小規模ホーム部会に参入し、研修会・運動会・職員交流会・職員交換研修等を通じ他施設との交流に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に面接を実施すると共に、アンケートの記入をお願いして、ご要望やご意見を把握するようにします。入所後も小まめな声かけや見守りにより安心して生活していただけるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学を兼ねて、ご家族と面会し状況や困っていること・ご要望等をお伺いしています。入居時のアンケートにご家族の希望も記入いただくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族のお話・病院からのサマーリー・前施設のケアマネ等からの情報提供を素に・ご本人の状況・状態をよく観察し、職員間で情報を共有しながら、サービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることはなるべく自分でしていただくように声かけし、見守りを重視しています。また、家事等もその方の出来ることを見つけていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や個人的な必需品の用意はご家族にさせていただきようお願ひしています。面会時や定期的なお便りを通じて様子をお伝えしています。年2回、家族会を開催し、ご家族と共に過ごす日を設けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常時面会を受け入れています。年賀状や書中見舞いを作成し、ご親族やご友人に送付しています。ご家族の協力を得て、ご自宅や利用者本人の行きたい場所に連れて行っていただいたりしています。	懐かしい人や場所・物について家族と協力し、面会支援や挨拶状の作成投函・馴染みの場所への訪問・使い慣れた物の居室への持ち込み等を促進し、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者相互の状況を職員がしっかり把握して、一人ひとりに配慮をばらい、良い関係を保てるようにしています。利用者がお互いに心配したり、気遣いを示すことが出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、電話連絡や訪問をしたり、季節の挨拶状を送付したりして、関係の継続に努めています。ご家族からの問い合わせ等にも誠意を持って応じるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話によく耳を傾け、思いや希望・要望を掴むように努めています。またご家族様からも話を伺ったり様子をよく観察したりして、本人本位の支援を検討しています。	家族からのアンケートや日々の利用者との関わりから思いを掴み、利用者の居室でいろいろな話をしながらその希望や要望・意向の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に記入していただいたアンケートや面会時のお話から情報収集・状況の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々に午前・午後・夜間と分けて過ごし方や状態をケア日誌に記録すると共に、申し送りを密にして情報を共有し全職員が利用者一人ひとりの状況や状態を把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族とよく話し合い、意向を確認すると共に、スタッフ会議の際に3名ずつ利用者のケアカンファレンスを実施し、全職員がカンファレンスシートを記入し介護計画の見直しをしています。	2ヶ月毎に全職員が3名のケアカンファレンスシートを作成し、スタッフ会議にて話し合い介護計画を作り定期的にモニタリングが実施される仕組みが確立されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に午前・午後・夜間の様子や状況を記録し、申し送りをしっかり行い、職員間で情報を共有しながらケアや計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の思いや認知症状を把握して、個々のニーズに答えるよう臨機応変に対応し、柔軟な支援を心掛けています。ご家族さまの要望等に対しても柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の理解も少しずつ深まってきています。町内に毎月「いこいたより」を回覧していただき、様子や状況をお知らせすると共に、協力・信頼関係の構築に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人とお家族の意向を重視しています。受診は基本的にはご家族にいただいています。受診時は様態や状況を書面にし、必要なときは職員が同行したりしています。受診ごは受診表を記入していただいています。	家族の協力を得ながら、利用者の従来のかかりつけ医の継続や、協力医との連携、毎週の訪問看護など適切な医療支援体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは、口頭だけでなく申し送りノートを作成し、相互に情報や気づきを記入して共有しています。随時、電話にての相談も受け付けていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、病院に対し必要な情報提供をすると共に、病院側からの情報収集に努めています。退院時には、その後の生活の注意点などを書面や口頭で伺っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に見取り介護について説明しています。重度化・終末期を迎えるにあたって、再度、お家族の意向の確認をして、方向性を決め支援します。訪問看護師・協力医のご理解も頂いています。「終末期ケアに対する意向確認書」の作成を進めています。	家族や利用者の意向を確認しながら終末期対応への取り組みを行っている。スタッフ会議でのDVDを用いた研修や基本指針・意向確認書等の整備も確立している。	看取り対応の経験も有り、ホーム内の支援体制は整えられているので、さらにかかりつけ医や協力医などとの医療連携体制への取り組みが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応マニュアル・119番通報マニュアルを備え、社内において研修を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導訓練・通報訓練・初期消火訓練等を実施しています。災害時対応マニュアルを作成し職員の目につくところに掲示すると共に、近隣の方々にも協力をお願いしています。	定期的な避難・災害訓練が実施され、近隣住民との災害・防災協力関係も構築されている。非常用の備蓄やテントなどの準備も万全である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し、常に敬意を払い、プライバシーを守ることを職員一人ひとりが思いにとめて言葉かけや対応をするよう努めています。スタッフ会議の際、気になる点を取り上げて職員全員に注意を促しています。	利用者への関わりの理念が各所に掲示され、職員一人ひとりが敬意をこめた声掛けを実践している。スタッフ会議等では、声掛けや記録を含めてその対応について話し合われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員一人ひとりが待つ姿勢を持ち、利用者が自由に思いや希望を述べられるような環境を作り、利用者が自己の表出や自己決定を出来るように促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアと集団ケアを併用し、利用者が自分のペースや望みを大切に生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪をカットする際には、一人ひとりの個性に合わせた髪形にしています。更衣の際には、利用者本人に洋服を選んでいただいています。洗濯も小まめに清潔保持しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食の好みを把握し、調理していません。家庭的な料理を提供し、職員も一緒に食卓を囲み、会話をしながら同じものを食べています。準備や片付けなど出来ることを手伝っていただいています。	利用者の好みを聞きながら職員交代で食事を提供している。利用者の経験や出来る準備や片付けの手伝いを得ながら職員も一緒になって食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事の量・一日の水分摂取量を記録し、把握に努めています。献立を記録し食の偏りがないように工夫して調理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。夕食後は義歯の方ははずしていただき、職員が洗浄し入れ歯用の洗浄液に浸け置きしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のリズムや能力に合わせて、声かけ・誘導・介助をしています。本人の意思を大切に、排泄介助に際し、細やかな配慮をするようにしています。	利用者のプライバシーを大切に、一人ひとりの排泄パターンを掴み個人の状態に合わせた声掛けや誘導等の対応に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量・運動などに配慮しなるべく自然な排便を促進しています。排便管理をしっかり行い、便秘の方については、かかりつけ医や訪問看護師と連携して対処しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後2時からの入浴が定着しています。個々の体調や状況に応じ、順番や入浴日を変更しています。脱衣から着衣まで完全個室対応をしています。	1日おきの入浴を基本に利用者一人ひとりの個室を実施している。足湯やシャワー浴等も活用した入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりにご自分のペースで生活していただいているため、自由に休息をされたり、就寝されています。体調を考慮して、休息・就寝の声かけ・支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケア日誌のファイルに服薬説明書を添付し常時確認できるようにしています。服薬変更時は申し送りしています。服薬はその都度確認し記録しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分で出来ることはなるべく自分でしていただくように促しています。家事なども一緒にしていただくようにしています。レクリエーションも工夫して実施しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭を散歩したり、デッキでの日光浴を楽しんだりしていただいています。外食や行楽ドライブを実施しています。毎年、春の家族会のご家族の皆さんと共に行楽・食事会を行っています。利用者のご家族と個人的に外出されることも随時受け付けています。	各居室にはウッドデッキが備えられ日々の外気浴が何時でも楽しめる環境が整えられている。外食やドライブ・散歩・家族会等いろいろな機会が設けられ日常的に戸外へ出る支援が行われている。	外出は遠出だけでなく、足腰の弱い利用者には、近くの散歩やウッドデッキでの日光浴等も大切な外出支援になることを、家族・利用者とも共有化することも必要である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は金銭を所有していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がご自身で年賀状や暑中見舞いをご家族やご親族に書いて送るよう支援しています。お親族様からお便りも頂き利用者の楽しみの一つとなっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内を清潔で心地よい状態に保ち、ゆったりと過ごせるよう配慮しています。季節や気温に配慮し快適な室内温度を保つようにしています。壁には利用者の季節ごとの製作品を飾っています。	ホーム内や各居室、トイレや浴室、リビング等は掃除が行き届き清潔で快適な環境が整えられている。季節の飾りや利用者の作品、日頃の写真等が飾られ暖かな雰囲気を感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際の席は決めています。状況に応じて席替えをしています。ホールにソファを2つ用意して利用者同士が思い思いに過ごせるようにしています。冬場は和室部分にこたつを作りそこも自由に使っていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人とご家族で使い慣れた家具を置き、壁にはご家族の写真などを飾っていただいたりしています。居室の担当を決め、衣替えや寝具の交換等をお手伝いしています。	居室には利用者の馴染みの家具や生活用品が配置され、趣味の品々・鉢植えや写真等が飾られ自宅での生活と変わりのない様な状態が保たれている。又、居室は利用者職員との協働にて掃除・整頓され清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、手作りの表札をかかげ、「トイレ」「浴室」等の表示をしています。施設内には利用者の動線に合わせて手摺りを設置しています。フローアには余計なものを置かないようにし、足元の安全を図っています。		